

令和4年度（2022年度）第2回 熊本市社会教育委員会議 議事録

【開催日時】 令和5年（2023年）3月28日（火）10:00～11:30

【開催場所】 熊本市教育センター3階 第2研修室

【出席者】

■ 社会教育委員

奥村 浩介 委員
加藤 貴司 委員
小澄 直 委員
田中 洋子 委員
村山 淳子 委員
石井 憲子 委員
高梨 沙織 委員
八幡 彩子 委員

《欠席者》

新道 欣也 委員

■ 事務局

《生涯学習課》

- ・ 大石課長
- ・ 魚住社会教育主事
- ・ 福田主査
- ・ 菟場主事
- ・ 平野主事

《オンライン参加》

- | | |
|-------------|--------|
| ・ 教育政策課長 | 中川 浩二 |
| ・ 熊本市立図書館長 | 大谷 修一郎 |
| ・ 熊本博物館副館長 | 坂本 康祐 |
| ・ 青少年教育課長 | 上村 和也 |
| ・ 指導課主任指導主事 | 大山 法治 |
| ・ 文化財課長 | 北野 伊織 |
| ・ スポーツ振興課主査 | 栗崎 智子 |
| ・ 子ども政策課副課長 | 那須 光也 |

<会議内容>

- ・ 【議事(1)】 学校・家庭・地域連携協力推進事業の実施について
- ・ 【報告(1)】 熊本市立金峰山少年自然の家新施設整備運営事業について
- ・ 【報告(2)】 次期生涯学習推進計画の策定について

発言者	発言要旨
	【開会】
市民生活部長	【あいさつ】
【議事(1)】	令和４年度熊本市社会教育関係事業概要について 事業説明
【質疑】	事前質問及び当日発生した質疑について応答
石井委員	学びたいむの現状とこれからの方向性はどうなのか、更にお尋ねしたいです。
指導課	令和元年度に旧学びノート教室の運営が各学校の設定で可能となり、令和２年度には学びノートの配布はなくなりました。 コロナ禍以後、外部人材の学びたいむサポーターを活用しない学校では、放課後の学びたいむとは別に、午後に学力充実の時間を設けたりするなど、教育課程内で教職員のみによる学びたいむを実施する割合が増えております。 一方、さらに個に応じた指導に取り組む学校では、児童に旧知の地域人材や退職教職員などを外部人材として活用し、放課後や夏季休業期間に学びたいむを実施する学校もあります。 学びたいむの主な教材は、１人１台端末のアプリです。次年度からは５教科での活用が始まることから、より個に応じた学習が期待されます。今後も各学校の学びたいむの運営を重視し、地域人材等も活用しながら、対面による個に応じた指導を推進してまいります。
村山委員	学びたいむについて、学生サポートの活用が難しい中、工夫されて実施されていると思います。今年度は学生サポーターを活用される学校が増加してほしいです。学生にとっても学びの機会になると思います。
指導課	熊本大学では、今年度入学の学生から教育実習が３年次に移行することで、大学の教務課担当者は、これに伴い午後もフルで授業に参加する学生が増えていると回答しています。他の２大学でも、午後の授業コマ数は同様の傾向と回答が 있습니다。コロナ禍以後は、授業との兼ね合いもあり、殆ど募集がないのが現状であると回答しています。今後、新型コロナウイルス５類移行に伴い、５月以後は大学を通じて、４年生への呼びかけも行っていきたいと思っています。
加藤委員	子どもチャレンジ公民館は、区毎に各公民館が連携して実施されていると思いますが、中央区については、指定管理の中央公民館との連携は取れているのでしょうか。
生涯学習課	中央公民館については、指定管理に移行後、プランナー募集を行う中心館とはなっていませんが、同じ中央区の大江・五福の２つの公民館への協力・支援は継続して行っており、区内の連携は取れています。

発言者	発言要旨
	また、子どもたちを対象とした活動については、熊大メイクフレンズとの連携事業をはじめ、独自で実施しております。
加藤委員	子どもチャレンジ公民館は、社教主事が中心となって連携を取りながらされている事業だと思いますが、中央公民館の社協主事が退職されるという話を聞きました。そうすると、公設公民館 19 館と指定管理の中央公民館が離れていく気がします。中央公民館の社教主事がいなくなったら、このような社教主事を中心に取り組む事業は、誰と連携を取るのかをお聞きしたいです。
生涯学習課	中央公民館の社協主事につきましては、3 月で退職されますが、引き続き別の社協主事を充てられると聞いておりますので、4 月からは新しい社教主事が就かれると思います。 また、他の公民館と連携しながら行っていく事業については、引き続き連携しながら実施していきたいと思います。
加藤委員	小学校の開設数が全体の半分になっているようですが、以前からするとかなり減っているようで心配です。今後、開設数を増やすために何か検討されているのでしょうか。
生涯学習課	これまで、各学校で案内を配布したり、PTA 総会や新入学児童保護者説明会の場で説明をさせていただいたりして、「主体的に学習が進められ、学級生同士のコミュニケーションが図られる」という家庭教育学級の素晴らしさをアピールしてきました。 今後も、学校との連携を図りながら、引き続き、社会教育主事や社会教育指導員による働きかけを行っていく予定です。
石井委員	コロナ禍になって丸 3 年、子どもたちの育ちにどんな変化があるのか、全体像を生涯学習課としてはどのように捉えておられるのか話を伺いたい。
生涯学習課	生涯学習課では、青少年の育成として、青少年健全育成連絡協議会や子ども会育成協議会と連携を取りながら活動を行っているところであります。各団体の方からは、子どもと地域の連携が減った、子どもたちがドンドヤなどの季節行事を体験できていない、などの声を聞いています。 生涯学習課としましては、人間関係の希薄化や体験活動の減少により、子どもたちの孤立化が進んでいると捉えています。また、それにより、家でテレビやゲームをする時間が増え、運動不足になるなど、心身ともに影響があると考えております。 生涯学習課でも工夫をしながらやってきた 3 年間ではありますが、不十分なところもありますので、新型コロナウイルス 5 類移行後は、活動再開に向けて取り組んでまいりたいと思います。
新道委員	コロナ禍で、これまで以上に学校の顔が見えにくくなっているように感じます。今後の連携について様々なご提案、取組が議題（1）でお示しいただいていますが、日常生活の中で地域と学校（家庭）との敷居を低くするかが課題だと感じます。その点を踏まえて取組を進めていただきたいと思います。

発言者	発言要旨
生涯学習課	日常生活における地域と学校の敷居の低さを踏まえた取組について、現在、具体的にお答えできる取組はございませんが、ご意見を共有させていただきたいと思います。
石井委員	コロナの状況を見据えながらですが、社会教育委員同士の情報交流の機会があると、意見の内容も深まる気がします。
生涯学習課	ご意見のとおり、各団体で意義深い活動をされています。そういった活動を教えていただくことは、市としても大変勉強になります。コロナも5類に移行する予定でありますので、そういったことも見据えた現在の活動でありますとか、予定されている活動などについて共有できればと思いますが、八幡議長いかがでしょうか。
八幡委員	せっかくの機会ですので、委員の皆様のご意見等をいただく機会を設けさせていただきたいと思います。 まずは、各担当部署から、この1年の取組内容に関してご報告をいただきましたので、事前にご提出いただいた質問以外に質問をされたいという方がいらっしゃいましたらお願いします。
高梨委員	学びたいむについて、夏休みに学びたいむのサポーターとして地域の学校に行きましたが、学習というより、夏休みの宿題を持ってきて、それを終わらせたらその後は自由というような形になっており、学童保育の延長のようでした。また、タブレットは使用禁止とのことで、何もできない状況でした。そのため、来年度は指導課から内容についてもう少し具体的に言っていただけると動きやすいと思いました。
指導課	貴重なお意見ありがとうございます。いただいたご意見をもとに、もう一度指導課でも検討していきたいと思います。
石井委員	学びたいむについて、令和5年度は学習支援アプリが4教科（国・社・算・理）で可能になるとのことですが、私が聞いた方の話では、算数だけで精一杯とのことでしたので、4教科実施するには工夫が必要だと思います。
指導課	次年度に向けてしっかり検討して行きたいと思います。
奥村委員	本校では今年度、教職大学院ストレートマスターの学生に、学びたいむサポーターとしてご尽力いただき大変助かりました。現役の学生はなかなか時間が足りないという話がありましたが、教職大学院の大学院生に聞くと、大学院の2年生は比較的時間があるとのことでしたので、そのような大学院生への呼びかけも大事になってくると思います。
指導課	声かけの仕方についても、これから十分に考えていきたいと思います。
八幡委員	学習支援アプリというのは確かに充実していくと思いますが、その一方で、やはり対人的な関わり方の中で学ぶことの意義というのも大きいように思います。

発言者	発言要旨
	今年度、教育学部に入ったばかりの1年生が、2月になってようやく中学校の授業参観に参加し、先生と子供たちの生の掛け合いの姿を見て、これが一番楽しかったと言っていました。 今後は、対面の関わりを増やしていけるかがポイントだと思っています。ぜひ指導課にもお力添えをいただきたいと思います。
指導課	やはり対面はとても大事だと思っています。実際の人との関わりを通して学ぶということは、子どもたちも学生も同じだと考えておりますので、これから伝えていきたいと思っています。
田中委員	私が壺川小学校に勤めていたときに、学級支援という形でルーテル大学の学生さん10名くらいに自主的に来ていただきました。その学生さんたちから「授業の様子や子どもたちへの接し方を間近に学ぶことができ、本当に貴重な経験でした。」と言われ、次世代を育てることができたことがとても嬉しかったです。学生のうちにそのような体験ができるような場を、私たちが設定していく事が大事だと思います。
八幡委員	学校現場に学生を送り出す側から言うと、コロナ禍で気を遣うこともありましたので、そのように歓迎していただけるのは非常にありがたいです。
生涯学習課	私たちが事務をするうえで、やる気のある学生に声を届けることが難しく、苦勞しております。そのような学生に声を届けるための有効な方法があれば、教えていただきたいです。
八幡委員	以前であれば、教育学部の教務担当という部署が窓口になり、夏休み明けで学校に出にくくなる児童生徒の相談を電話で受け付けるボランティアを募集するなど、学生ボランティア募集の窓口になっておりました。放課後のサポーターも同様です。そうした部署を通していただくと、少なくとも教育学部の学生に関しては集まります。また、大学全体で言うと、学生支援部がボランティア募集の案内を学生にウェブを通して周知するという仕組みもあります。
石井委員	それ以外にも、県ではパレア、市ではあいぽーとで学生のボランティア募集などが頻繁に行われています。そこに集まってくる人々はやはり意思をもって来ていますので、そのようなところに尋ねると良いのではないのでしょうか。
生涯学習課	パレアとは少しずつ連携をしてきておりますので、今後はボランティアについても話をしていきたいと思っています。
田中委員	TSMCが入ってきて、生涯学習課として何か動きがあるのかを教えていただきたいです。
生涯学習課	今現在、具体的にはありませんが、来年度策定を予定している生涯学習推進計画の中で、TSMCに限定したものではなく、多文化共生社会というところで検討していきたいと思っています。
八幡委員	それではただいまから、社会教育に関する今後の活動予定等を各委員に2分程度でご紹介いただければと思います。

発言者	発言要旨
奥村委員	私は今年度で定年を迎え、4月からは公民館の方で働かせていただきます。今後も生涯学習の場面でいろいろ活動できることを楽しみにしております。 本校は、家庭教育学級をやっており、当初は社会教育主事の方から、公民館を主体に使ってくださいという話がありましたが、本校は学校で行うことにしました。そうすることで、保護者の方も来やすいですし、先生たちとの交流も生まれ、回数も参加人数も増えたような話を聞いています。 このように、学校を拠点とした家庭教育学級というような形で、ますます活発になっていけば良いという思惑を持って、また公民館の現場に戻りたいと思います。
加藤委員	学校・地域との連携事業ということを考えたときに、コロナ禍の3年間で、いろいろな活動が衰退しています。これをコロナ前の活動に戻すことは非常に大変です。学校の方でも、地域と連携できなかった部分があると思います。そのため、地域と学校との連携をどのようにすればよいかということ自体が、分かっていないのではないかと思います。 例えば、今までは、「去年のようにお願いします。」と言うと大体分かると思いますが、3年間やっていないと、去年のようにと言われても分からないと思います。また、校長先生にとっても、やっていないことを新しくやるというのは、非常に大変だと思います。 そのため、ぜひ教育委員会の方にも申し出て、校長先生はじめ、地域の方にこまめにいろいろなことを話に出かけるなど、子どもたちのためにどのような取組を行ったら良いか、今まで以上に積極的に行う必要があると思います。 また、家庭教育についても、以前より減っているように思いますが、これを復活するためには、校長先生がどのような対応をするかでかなり違うと思います。子どもたちも、学校に行った時に校長先生が一生懸命やってくれていると、すぐに入りやすいと思います。もちろん公設公民館の社協主事が頑張ってくれていますが、それ以上に、学校の対応が重要になると思いますので、できれば生涯学習課から、教育委員会の校長会に積極的をお願いをしてもらいたいです。
生涯学習課	校長会の方には、生涯学習課も出席させていただいて、いろいろな事業の説明をしてもらっていますので、また4月になりましたら、校長会の方で家庭教育学級など、様々なことを伝えさせていただきたいと思っています。
小澄委員	私が所属している青年会議所に関しては、40歳で卒業という年齢制限があり、私は去年40歳になりましたので、団体自体は卒業して、一線を退きます。ただ、来年度以降も青年会議所としては青少年育成という分野にも力を入れていますので、引き続きいろいろな活動に力を入れていきたいと思っています。 また、行政が取り組んでいることや、委員の皆さんからのご意見を伝えて、会としての今後の活動に活かしていきたいと思っています。

発言者	発言要旨
	さらに、個人的には、保育園を運営しておりますので、ものづくり教室や子ども講座を保護者の皆様にもお伝えすることも子どものためになると思います。また、今後持続可能な社会を作っていくためには、郷土愛は絶対必要だと思いますので、子どもの頃から愛を育めるような機会が多くなれば良いと思っています。 例えば、ものづくり教室や子ども講座も、地域資源を活かしたような活動を検討して取り入れていただけると、より子どもの発達のために良いと感じました。
村山委員	私たちは 8020 運動などを行っておりますが、学校の先生によって、考え方がさまざまということを感じました。小学校とは互いに協力し合いながら活動しておりましたので、それを今後、元のように学校との関わりが増えるように努力して行きたいと思っています。また、読み聞かせ等で学校と関わりたいと思っています。
生涯学習課	地域婦人連絡協議会の皆様には、消費者学級等でお世話になっておりますので、引き続きお願いしたいと思います。
田中委員	私は今年 1 年、尚絅中高で美術の教員を非常勤でしておりましたが、そこで教育センターの先生が作ってくださったテキスタイルデザインというアプリを使わせていただきました。 私立校には、まだ熊本市の教育の良さというのが伝わっていない状況だと思いますが、その中でテキスタイルデザインを使って授業をさせていただいたところ、中 1 から高 3 までの子どもたち全員が本当に喜んでおり、私自身とても楽しかったです。 また、私が最後に務めた壺川小学校では、子どもたちと一緒に南風先生の研究を行い、子ども文化会館で発表をしました。 その授業の教材として、すごろくと南風先生マップというものを作ったのですが、今年、6 年生の先生が学年でそれを活用してくださいました。授業を受けた子どもたちからの手紙には、“南風先生が大好きになりました”“授業楽しかったです”“南風先生のことが誇りです”“南風先生をこれからどんどん他の人たちに伝えていきたいです”という言葉がたくさんあり、本当に嬉しかったです。 私は NPO の代表をしておりますので、今後は南風先生のことを伝えていくということを中心に取り組んでいきたいと思っています。 また、次世代を育てるために、先ほど小澄委員からもあった、郷土の人や物を活用するという学習が生涯学習の中にたくさんあると良いと思っています。 さらに、私は特別支援教育を 20 数年行ってきましたが、今後の活動としては、皆さんがいきいきと生活できる環境づくりを一番の目標にしております。これまでの生涯学習推進計画の中にも、障がいを持っている方たちの生涯学習

発言者	発言要旨
	というのはありましたが、なかなか進んでいないように思いました。しかし、福祉の部分では進んでいるため、市役所内での連携をしていただきたいと思います。連携の部分で難しい点があれば、ぜひ社会教育委員を活用していただければと思います。
高梨委員	私は、PTA 協議会に所属しているのですが、やはりコロナ禍で、何も活動ができなくて、子どもたちの為に何が出来るのかということをやっと模索した期間だったように思います。子どもたちのためにできることが減っていくと、PTA 保護者さんも離れていってしまうので、そこをどう繋いでいくかということをやっと模索してきました。 今年度になって少しずつ活動ができるようになって、研修会等で家庭教育セミナーを活用するなど、少しずつ保護者さんも前のように子どもたちのためという風に意識を向けて来てくれるところだと考えています。 来年度はまたいろいろ模索が続くと思いますが、学校と地域、子どもたちが繋がって活動できればと思います。 私個人としては、小学校で学びたいむサポーターに入ったり、スポーツ協会や消防団に所属したりしているので、小学校校区とは繋がってきていますが、4 月から中学校 PTA 会長になるので、またそこで保護者さんと学校との繋がりが難しくなってくるのではないかと思います。そのため、また新たな活動ということをやっと模索しつつ、元通りではなく新しい形で活動していかなければいけないと思っています。
石井委員	私は学校を退職して、何かお手伝いをしたいということで始めたのが、NPO 法人・教育支援プロジェクトです。 コロナ禍がプラスになったかマイナスになったかと思った時に、プラス思考でいけば、みんなが非常にいろいろなことを考え直す時間になったと思います。そして、さらに新しいものを生み出していくといういい機会だったと思います。いろいろな負のイメージもありますが、今後はそのような視点でみんなが立ち上がって行けば、明るい未来が来るのではないかと思います。 また、うちの NPO 関係で言うと、コロナ禍になって、家庭教育学級や家庭教育リーダーステップアップ研修等は集合開催が難しくなったため、メンバーはオンラインがとても上手になり、オンライン学習会ができるようになりました。家庭教育セミナーも、実際現場に来られるのは 5、6 人で、オンラインで参加されるのが 10 名以上という感じで、それは本当に良かった点です。そういう意味で、社会に貢献できたかなと思う反面、1 人 1 人が目指すところをきちんと持って、自分ができることをコツコツと行っていく事が大事だと思います。 さらに現在、退職女性管理職会も担当しておりますので、卒業の校長先生方や現職の校長先生方にも、校長先生の一言でコロッと変わるということを啓発していきたいと思っています。

発言者	発言要旨
八幡委員	先ほど TSMC の話が出ましたが、うちの大学院では現在、文部科学省の単年度事業で、外国につながる児童生徒の教育を担う教員のスキルアップ事業にトライしております。もしそれが取れたら、専門性を持った人を育てることを来年度チャレンジしたいと思っています。 また、先生方の生涯学び続けるという研修の機会充実に役に立ちたいと考えております。 さらに個人的には、2年間熊大大学院教育学研究科長をさせていただいておりましたが、3月で任期が終わり、来年度からは自由な立場で、好きなことだけをやろうと思っております。学校というのは非常に組織的なところですが、社会教育というのは非常に広がりがある場だと思っておりますので、このようなご縁を基に、熊本を元気にする取り組みができればと思っています。
【報告(1)】	熊本市立金峰山少年自然の家新施設整備運営事業について 事業報告
【報告(2)】	次期生涯学習推進計画の策定について 事業報告